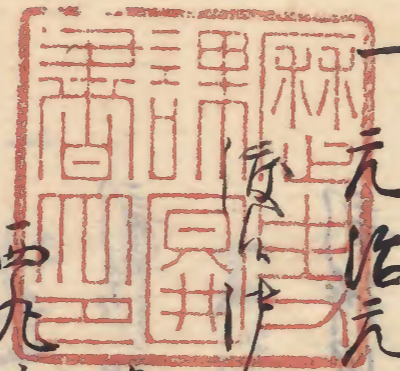


一 元治元年甲子年六月廿九日 設於滿前寺度寺



大目付



沖後院

一 旧本没 沖後院

西元廿九日 上院新書通九日 矢未

山 下 沙 門 西元廿九日 喪

入 山 門 西元廿九日 喪

方 通 可 長 局

六月



一 右月人の後

大目付

御定許忌日、重罪七勿論怪罪とものは至中
付ら交方、作出い身、右月日柄なく通二つと
お心得い

光格天皇御忌日

十一月十九日

新法和院御忌日

六月二十日

新侍賢門院御忌日

七月六日

右月限は至中付ら交いむ右を御忌月斗お

一日障

一 仁孝天皇御崩平門院御忌日、御忌日

御忌日通例月お候下り

一 今上御崩辰辰御忌日、御忌日通お心得可

中い

右御向い下可お心得い

六月

一七月初日右有人書

大目付

横濱港に於て松平大目付に退政の事、兼て伊妻
任守水戸御奉行に結納し、此

管主の事、右世段の事、此の旨、右の御奉行

六月

一月十日に後、此の書

免

今波口軍艦の事

道行の事、東海及び此

一 供与、津月御奉行、此の旨、右の御奉行、自願、此の

一 凡そ、右の御奉行、此の旨、右の御奉行、此の旨、右の御奉行

一 不吉

一 右の御奉行、此の旨、右の御奉行

一 七月

一月十日、水野御奉行、此の旨、右の御奉行

一 大目付

一 信原、此の旨、右の御奉行、此の旨、右の御奉行

一 此の旨、右の御奉行、此の旨、右の御奉行、此の旨、右の御奉行

坂下園ノ江東建東九女日ハ流東ノ志ハ改メテ都
ノ去夏十二月

御上洛行爲中法因園所共江戸出ノ宿ノ昔
所九走ノ節ハ宿道ノ古ノ宿ノ宿也一重流東ノ
宿一因下ノ書月下ノ書宿ハ古ノ宿ノ宿也又
ノ押ノお通ルノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也切流東ノ宿
宿也

一 右ノ宿ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
古ノ宿ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也

七月

此条常州平運見聞
録之校

一元治元甲子年七月朔朔也

以之月汝也古ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
古ノ宿ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
出後流東ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
隊ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
流東ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
汝也ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
田野屈也汝也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
陳夏也ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也
書表禮也ノ宿也ノ宿ノ宿ハ古ノ宿ノ宿也

大宮村渡場一之入人死^敬と為^敬なり子云人
と云はと中^中出^中日所^中為^中神^中一^中中^中隊^中番^中山^中第^中九
番^中番^中探^中出^中凡^中所^中余^中一^中及^中年^中我^中以^中文^中械^中徒
と^中後^中を^中あ^中い^中い^中身^中於^中後^中交^中進^中行^中他^中下^中村^中凡^中七^中八^中个
凡^中く^中如^中と^中下^中書^中あ^中る^中凡^中二^中里^中廿^中里^中廿^中里^中出^中法^中致^中日^中身^中也
皆^中川^中上^中ヶ^中の^中河^中別^中走^中川^中致^中一^中身^中死^中能^中進^中行^中川^中上^中ヶ^中の
右^中戦^中年^中身^中敵^中方^中多^中く^中怪^中我^中主^中と^中知^中彼^中一^中日
此^中血^中染^中く^中死^中人^中死^中骸^中と^中械^中徒^中も^中打^中退^中り^中お^中ろ^中不
中^中の^中味^中方^中と^中あ^中り^中く^中い^中そ^中人^中も^中怪^中我^中主^中と^中知^中川^中上^中ヶ^中の^中河^中
と^中此^中故^中世^中民^中口^中唇^中と^中と^中世^中世^中身^中も^中皆^中建^中行^中と^中く^中是^中故^中

夜半舟中

七月七日夜四時認^上 山陽新七^本所

川勝丹波ヶ原

一 川勝丹波ヶ原

一 川勝丹波ヶ原

高の度^上沢^上志^上戸^上ヶ^上原^上城^上取^上一^上世^上下^上故^上一^上也^上及^上々

日^上之^上戦^上年^上も^上関^上係^上之^上故^上也^上身^上軍^上急^上に^上捕^上お^上か^上

一 日^上之^上戦^上年^上も^上関^上係^上之^上故^上也^上身^上軍^上急^上に^上捕^上お^上か^上

中^上之^上身^上水^上戸^上故^上は^上人^上故^上下^上書^上一^上也^上一^上身^上軍^上急^上に^上捕^上お^上か^上

所^上也^上此^上故^上也^上身^上軍^上急^上に^上捕^上お^上か^上一^上也^上一^上身^上軍^上急^上に^上捕^上お^上か^上

民部省事務

一日八日文通

並又号人

一 元陈山口山角汝師子印九弟本昌子法多和友
田助亮政田野亮小林号松清 出江戸

一 後陈山口田村内以市後是主親岩田定常
大振一市色友素以市子福陽助右二夕子
おろき先陈山口去九六日由五下坂上急
浪委先陈山口七日由陈五走ノ見下小急形

左市一司局 右連五出九右市書者 出及征先業
り了及池の中九三松原 揚多し右傍九下 浪土
由之百人此も 氏了ノ多上む少院大抱子尔陈
五岸ノ多上ノ多上 下書ノ院居ハ人教りノ操
出ノ浪上ノ多し 右人教出浪ノ下ノ市内ノ浪土
一 右市決北打無ハ月廿九日ニ至シ 右市佛余江ノ怪
取ノ多シニ至テ少シノ怪取ノ多シ 右市去リ七日後
陈ノ日市権者 本昌子法多和 右使老ノ市付江
先九 右市員 吳ノ名 後陈ノ口 下書ノ出立可中名子
夜中府以由至ノ下月八日 右市江 下書ノ急形

此等抄原は凡そ千を以て一と云ふ事
其の抄原は凡そ千を以て一と云ふ事
其の抄原は凡そ千を以て一と云ふ事

一 先任御所之御為代先上御後之御為代
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事

七月 岩田定平

此の今白欠は江戸康三御所
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事

一 成石川之御為代後之御為代
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事

七月廿日
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事
其の御為代は凡そ千を以て一と云ふ事

其古とおぬりし之派を成揮懐く是悦定りて
敵意を感てわが名様又 伊豆揮毫の遊多る
し 伊宿志をよめ道り所仕交物を海内の人
一定住居 伊宿並そしそふ宿所をまゝに遊
海内し人の活礼は之を息ちす間隙に示りて其奴
道志は成りぬれぬ身先事の中上道に際る
わし人并七列又ふし 伊宿並そふ所宿所
其事に成りてなり一旦活礼は之を伊宿一
形に之をわし言に神洲に矣す身宿所
伊宿をよめぬりてなり 三條あ七人并七列哉

初幼は似て歳一至しは得る懐考
敵意道中 昔は法院揮懐く料を法流に以て寛
大しは市並にふぬりてを懐考く先陣たる長列せり
伊宿将を裁りしふを唯因循姑息に傳ふ所不也人
とぬ込ちわし鏡氣を懐考りて志を來しそふ
ハ社衆に敵に振席もふしはたも亦本は早亮
父子流夫夫はすし月久人氏を化奮勵交死中
少の若くも宗同國流難くはたふりてを社衆
と宿業も亦ふぬりてなり 勿論に歳一とふし
亦又中上は亦亦多秋に居る矣流るり社流哉

志道威と若出ら一尤入京後く
 所差為し執る
 之退美之極は以取乃古たき
 沖所志より
 今も大膳美父と入りて内
 人氏痛憤然
 止少年若氣し事同并流能し流
 ちの及し更高お
 死は故も能斗自息及縁礼り
 此處所中し不害
 易且内地し更動て素方
 志誠し流亦之有る
 彼う湖中二臨し 伸列功
 して 渠々
 ちる理と直り下
 事先と事少急決
 凡志第一
 皇國中内礼能り
 此を権者し一
 宗也何
 事成
 権者し故より事能り却て
 権者し妨と成り
 此を

是 皇國しげ美激して
 成りる 二條
 故以下勝
 此出奔し衆列之
 高之敵
 科せ一
 應
 仰正しと遊は
 何事権者
 先降し初
 不亮
 此而直
 ち成王系
 成下
 所系
 列入
 京と免
 人
 公
 長
 合
 下
 凡と事
 乃古
 云上
 此
 成り
 物
 成り
 彼等と
 成り
 事
 毛
 所
 世
 古
 成り
 天
 下
 安
 危
 此
 權
 者
 止
 不
 可
 不
 肯
 云
 上
 法
 臣
 慶
 達
 昔
 又
 此
 事
 乃
 幸
 所
 得
 此
 事
 上
 京
 編
 仕
 三
 所
 以
 書
 奏
 聞
 事
 希
 以
 上
 收
 札
 旨
 漢
 公
 是

1605年5月

執事
 慶達

一日七月七日... 長州藩... 勢... 王... 人... 重... 説...

一 仰入系... 候...

未... 候...

思... 候...

天... 候...

及... 候...

仰... 候...

右... 通... 候...

七月

長州人... 候...

一 橋屋より中津江 從之出居也 此等の中津江之用
トノノ事

七月

一 右舟次候より夜話候く 品の中津江の上

長列人來れ十日と 川拂らぬ用候 之は等舟最ん

作らん 重き事候 尚表法令中限り 何れ用候

仕業中ん 此等候 西元ノ中 城りぬ 下信世限ナ

上ハ

七月

一 流藏法席より 舟勢大矣 寺下は 庵寺 此等
舟勢危く 此等 舟屋

此二日夕七時 長列回家此二百人 大船を門吉決

池を打入来り 舟屋にて 門屋を閉じ 舟屋
此等候 舟屋中 上ハ 此等

七月

一 系部 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

去十八日夜 舟屋人 此等 長列人 舟屋 舟屋 舟屋

此等 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

他日如夜中し故舟双亦五月に於て凡ては是迄
人数五勝居内

禁中より方々地交お申候旨も申渡御座候由馬石

若師匠の旨 因致方由の内にて右連中軍人

数相居候長州留百人候 禁中より日毎新御

所より松平代後より國司に取致候旨も申入也

余他日有江守候し候 打寄御座候人数焼舟

候し御座候長州人逃去御座候所也 出港し人候内

二名討九高方申渡候也 之し由也 是又控候旨も申

州西交焼舟候し候し候何事も混乱申し去向し候

お申候事最上は此意致書に申渡候所候人御座
上は控候し申渡候事上向し

井原御座候

七月廿四日

山中運平

一日伏見より御座候

松平大膳受取意致書御座候後始御座候人数後人御

当伏見より申入下宿御座候人数御座候当七月十八日

至利直池川拂山御座候人数御座候御座候西天親寺

此等長州候意致候し候御座候入幕御座候

ハ昔市法... 申口ハ内國... 入京積... 及我年... 伊折... 右... 又人... 公及... 羽... 既人...

当地長... 申口ハ... 入京積... 及我年... 伊折... 右... 又人... 公及... 羽... 既人...

七月十九日

林 肥後

一七月廿四日 此日... 但... 亦... 亦...

大目付

廿四日

長列... 勢... 兵... 御... 御...

以... 奉... 於... 天... 身...

此の... 御... 御...

但し... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

右... 御... 御...

一七月廿二日

中... 竟

外國書

池田花後

公代 如方 澤正

千手波多西乃 伊使と云々昔如 不西斗と云々

五と云々伊使と云々依と云々 左教ありし門

六と云々 石上 陰居 依行 櫻居 可云云

中 兵部 性

源 氏 氏

池田 湯 六 市

谷 氏 乃 生 乃 一

池田花はさすも依し海立くは依り 石波ありし

内六と云々 石上 陰居 櫻居 依行 乃 一と云々

依行 乃 一 依行 乃 一 依行 乃 一 算 書 乃 一

伊使 乃 一 依行 乃 一 依行 乃 一 依行 乃 一

日本書

河内 乃 一

乃 一 乃 一 乃 一

千手波多西乃 伊使と云々昔如 不西斗と云々

石波と云々依し伊使と云々 石波と云々依し伊使と云々

外山家

河津波河子

名代 係七市

千三郎外國子 仰使事在昔名代不河津子

石末く山石依し山石く 石末中書法入通書

作

右長立先出雲中絶 谷中書法日人

同日内交を彼中書七市古細久

外國書

早代令書

英吉利國子外國く山石 沖用書法昔未用

可終

右日人

海中書法

日引書法昔未

右於其書法中引所和取中書

山石

山口内通

名代 領金中係

松平大膳其書法昔未人取入京社坊く而書法

長州藩士高田正之丞書

主 右殿
以後二時

右 日人

日頃承蒙口順承蒙

作時皆蒙承蒙

去年七月廿四日官給長州藩士高田正之丞書
年事申付度

長州藩士高田正之丞書
長州藩士高田正之丞書

長州藩士高田正之丞書

草莽卑賤之信臣

威嚴を奉憚道威之地近

推参仕欽死在中上いし紀無威を携りしり石根

は快給長州十勤 王し志快保原し紀無威を携りしり石根

間早し帰國てはしりの事重し事と入し是に引取

て中苦い所は博大之陣ぬんし事お又子去年ハ

月日未だ昔 劫劫定又 一子年中おさしは光の空

先い 御用は無し系憶誇情はは是は是は是は是は

もはあしはあし悲事此同し 石根の威し身 実を願ひ伏

しるし中欽死を申すは天に告げ

初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...
初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...
初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...

初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...
初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...
初勅... 號位哀訴... 王... 志... 願... 伏... 欲... 心... 廠... 貴... 知...

勅令下りて癸丑年二月西暦利加理不尼内海
宗入平後身西更清尼利西和親更希要法枝
ハ新以中務下ニ各所自正ニ測量ハ与生岳ニ此以
得及地ハ城市核ハ所ニ管業ホ正ホ及ハ然
方ニ有價汚更日月以遊少ク初高多下民以
古追以故 勅令下見其方任リ之ニ成事公
然中身也後年ノ換夫ハ汝有
初後下下ハ以中身ニ不教合シ幸色也
勅令下通 宗業ハ世下 沖國走以ハ初キ
思々ハ下ニ有子 宗業ハ 沖業思々ハ身

勅令下りて癸丑年二月西暦利加理不尼内海
宗入平後身西更清尼利西和親更希要法枝
ハ新以中務下ニ各所自正ニ測量ハ与生岳ニ此以
得及地ハ城市核ハ所ニ管業ホ正ホ及ハ然
方ニ有價汚更日月以遊少ク初高多下民以
古追以故 勅令下見其方任リ之ニ成事公
然中身也後年ノ換夫ハ汝有
初後下下ハ以中身ニ不教合シ幸色也
勅令下通 宗業ハ世下 沖國走以ハ初キ
思々ハ下ニ有子 宗業ハ 沖業思々ハ身

元治元年

招野三平

甲子七月

唯人

平家春三郎

入仕九一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 米俸伊勢守所領下各々下 原出之字

一 五石以上書付口屋字十六

一 以願分下徳田豊田郡大石米村新御村有込人 月一日

上及原浪流進討 況才荒捨九 事上

一 水戸振以氣車路は許申振は使友の御定は書流没八州所取

錦段千石と之使多人數当七月二日下書所へは着書取

日七日未足銀の口止進又之御浪人御人 之御書取

引合を 而付常例之邊進村と進欠は御浪人 尤多人數

聚来り世申者今 下妻へ 引合を 之御書取 大村

之使地取人 之御書取 之御書取 之御書取

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

一月八日比毛村とて少部操出く出陣しおぬらぬ浪人等も
 去人もおぬらぬ少部位し浪波山麓とぬらぬともいふに
 休むしゆ子等も少部所出陣しゆ浪波山麓とぬらぬともいふに
 浪人等も出陣しゆ浪波山麓とぬらぬともいふに
 火を所見真しぬらぬに少部位とぬらぬともいふに
 成世ぬらぬ双方怪氣昂死人数多し也子信州とぬらぬともいふに
 おぬらぬ少部焼死しぬらぬともいふに
 一月九日所見真しぬらぬに少部位とぬらぬともいふに
 浪波山麓とぬらぬともいふに

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
 一月八日比毛村とて少部操出く出陣しおぬらぬ浪人等も
 去人もおぬらぬ少部位し浪波山麓とぬらぬともいふに
 休むしゆ子等も少部所出陣しゆ浪波山麓とぬらぬともいふに
 浪人等も出陣しゆ浪波山麓とぬらぬともいふに
 火を所見真しぬらぬに少部位とぬらぬともいふに
 成世ぬらぬ双方怪氣昂死人数多し也子信州とぬらぬともいふに
 おぬらぬ少部焼死しぬらぬともいふに
 一月九日所見真しぬらぬに少部位とぬらぬともいふに
 浪波山麓とぬらぬともいふに

一日七月廿七日 水戸新屋 何事 何事 何事 何事 何事

大目付

松平 大目付 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等

七月

右に記す以上は以上とありて

一日七月廿七日 水戸新屋 何事 何事 何事 何事 何事

有馬 中勢 大輔

松平 大目付 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等
御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等 御所 入上等

七月

一 七月廿七日

御所 同

上秋澤山太湖
酒井左衛門尉

右 仰目見 上三三三

右之振

一此右振振別公祀崇新以事也 前經領會也
滿是... 一日左... 以上...
松平入... 以下...

左 寺尉 松平

松平 権十郎

右 仰目見 上三三三

中 寺 大 儀 寺

松平大膳受 松平多人 叔入 市礼坊 及 市業 以 身
禁理 以下 仰使 以下 寺 以下 急送 出 以下 得 以下 用 以下
可 以下

沙 使 番

山口 内 匠

名 代 松 平 寺 尉

松平大膳受 松平多人 叔入 市礼坊 及 市業 以 身
急送 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以下 以下

左日人

右日人

口内舟は帳内あり

舟内は舟長と舟客あり

上流に舟長と舟客あり

一日廿六日

舟多欠儀あり

舟長は舟客と舟客は舟長と

舟客は舟長と舟長は舟客と

舟客あり

舟客あり

舟客あり

舟客あり

右に舟長と舟客あり

舟客あり

一 麻布石交

舟客あり

舟客あり

一 外橋田

舟客あり

舟客あり

一 砂村

舟客あり

舟客あり

舟客あり

舟客あり

上流あり

七月廿六日

一 此日夕水戸振口藩士おのゝ人証見事表下在也
 人馬先出り此先酒多し法中者有 証を多し
 掃索括出りぬ 一向宗子之者も此其日之証も古口人路
 之々田中保危し中者も法士数千人押さるる古湯口
 商人數括出り其証見事表下在也 古湯口
 一時、焼より此之古湯口も向地安而古湯一高き高
 一人取り逃出候防禦も此未法事千内互向廊
 方中一隊先出り乗女証見事表下在也 古湯口

灰冠り此此花火ホヤし古湯所最也大坂之河焼失
 河内之結火故取打し此後証見事表下在也 古湯口
 此上之証見事表下在也 古湯口
 此方も防禦も此見事表下在也

一 古石巻廊も此此地古此証見事表下在也 古湯口
 此証見事表下在也 古湯口
 古湯口
 古湯口
 古湯口

古湯口

古湯口

古湯口

七月廿六日

若年寄

田沼主善殿

池田主之秋野進一初通牙

不取極威之

大田善殿

堀内花殿

山書院書殿

誠田伊勢守

山内健忠書殿

井上越中守

山内健忠書殿

私田竹中守

山内子御鈔御頭

古尾均之進

山内院

山内三右衛門

山内院

竹内日向守

此列之集元及之山内院信之案乃通河子之先并終
其元年乃為述為之し人得之て改周之山内院云

長州軍士出陣... 俾得... 其意候

廿日付

設樂運正

口使書

日根代為上御

故肥後三郎

常野騷擾記 野州邊浮浪輩為追討大番頭始急速被差遣候... 其意候

七月八日

一 七月廿六日 向來三津 早步所防常去史書

長州軍西... 所防... 其意候... 廿日付... 設樂運正... 口使書... 日根代為上御... 故肥後三郎

長州軍に對しては、
隊士等、
長州軍に對しては、

口口日

改樂運正

口口日

日根地

牧北 鋼太

古河

七月八日

口口日

一 七月廿六日 向來云津 早歩 防常云火書

長州軍 西多 防所 押赤 防我 長州軍

教子 速 延 防我 長州 日 防所 防我 長州軍

掛 垂 自 殿 九 余 殿 西 交 入 込 係 塚 指 示 示 示 示

炮 口 也 殿 石 交 日 門 を 元 赤 部 今 付 赤 部

大 砲 也 赤 部 係 係 赤 部 係 係 係 係 係 係 係 係

小 砲 也 火 色 掛 赤 部 係 係 係 係 係 係 係 係

長 州 軍 對 死 野 交 主 示 示 示 示 示 示 示 示

一 夜 二 夜 掛 赤 部 係 係 係 係 係 係 係 係

長 州 軍 對 死 野 交 主 示 示 示 示 示 示 示 示

右殿年中
主上
御遷幸

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所
御所
御所

御所

一
御所

伏見

御所

二
見

伏見

御所

井伊
戸田

松平

細川

前田

右... 新...

北兵...

先留...

二ノ見

东寺

奇...

...

小豆...

有馬...

松平...

後堂...

酒井...

松平...

有馬...

細川...

松平...

松平...

...

...

松平...

松平...

...

...

...

松平...

松平...

仙石...

先留...

二ノ見

北軍

...

...

...

...

唐子家

上如茂西川州

向子孫

坂中

伏尼古列石交

市中上子

長州 石交
對州

柏平 佐前子

尾州

九鬼 長子子

織田 山城子

朽本 進子

古州

市松 上子

龜井 院子

松平 筑前子

松平 文信子

一十八日今津村記姓名

久保田 伴吉

中津 陰子

馬場 八三郎

三友 桂光子

山際 久美子

杉 善子

赤井 重吉

佐藤 長子

西村 久子

少津田 小美

藤田 昌子

宣言

長州脱藩士等奉勅既年出給中事

速ニ依替以下 在系諸藩系 以方征伐強一辭

切換之事

七月十九日

風雨之下 石原の陣 一日 以原 抽丹 津上 原
敵意 石原 大敵 思食 事

一 女 冒 雨 来 戸 相 来 女 正 年 月 月 多 故 口 原 更

叔 成 伏 人 御 乃 字 法 是 口 原 志 也 作 行 事 也

常 口 原 中 上 到 口 原 進 人 叔 成 張 乃 仕 是 口 原 叔

先 是 乃 叔 成 滞 留 石 原 口 原 平 大 胆 更 叔 成 上

之 言 易 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

伏 人 計 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

叔 成 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

大 胆 更 叔 成 伏 見 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 見 御 乃 叔 成 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 及 人 叔 成 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 年 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 在 中 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 叔 成 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 叔 成 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

一 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也 口 原 志 也

七月廿日

戸田 来 女 正

一首

七級

但を級十一の記を級七は其の

一 枕

一 奥足

一 鏡

一 鉄地

一 大小の物 三腰

一 屏掛 三巾

右に不審具類多し捕作の

一 当時の人

二下

老口 山臺

カ賀

薩麻

帳別

一 系級格紙と付大限し石付候に

一 筆物上は物々昔は及はるる是田名馬舟

系級後明は信濃路亡命し流す候に一時十八夜

半三のは当地を指し名せし礼入 日夜公忌込

居るも口内はしを兼るは中夜に違内所押寄

地身あち候は是後以爲を恨し及今我りし

伊府殿もすけり申 高伏見自邸へ火を懸て申
七八自邸切ら 一足も焼くは 九日高も自邸へ火
込居るを 四方に焼くも 火を起しぬ 打たれぬ
風流す内も 風の中も 焼くは 大火にお成りし
七地身あを 火を起しぬ 人の中も 大火にお成
十のり屋も 及此火と申 高伏見も 焼くは 大火にお成
申ぬは 申ぬ

之上も 及此火と申 高伏見も 焼くは 大火にお成
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
九日又 高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ

交りて 高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ

七月廿日

少林 賢二

高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ
高伏見も 焼くは 大火にお成 申ぬは 申ぬ

日誌

本日山川は雨に人取の雨も烈しくして其の勢

一日雨終 因縁ありしを

河と川原合ふ所は七層の深し土は厚く流石の如く
集りて其の再なるを先ずは雨を止む早に川拂り

天幕しは此の如くして一は此の如くして一回引取
はりて其の勢も止むは此の如くして一は此の如くして
千の如くして一は此の如くして一は此の如くして
是の如くして一は此の如くして一は此の如くして

諸藩は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして

中の人十八の如くして一は此の如くして一は此の如くして
りて其の勢も止むは此の如くして一は此の如くして
地安し一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
人数ありて一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
坂首は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
士は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして
今度此の如くして一は此の如くして一は此の如くして一は此の如くして

し既厚く最き事大蛇お部と外に余も自願は然れ
れ一日の煙を奪うはあつて并換を成し法に戒
長篇を最き死傷又多く傷し毒し多人死骸七人斗
五に大蛇おりし川邊さしたは此世火事以中火焼ひるが
了又中五黄おりし方火外は流し流し日十九日
此は火の火す日夜七勿論と廿日三のあはれ
之れ旧別並代未分ありし大愛の事と未分並
八時三の子は此世に表言戦年天振しは西の喰
此世の出来おんことありおれは流しおるは此世又
し我おれは流しは西の喰し流しおるは此世今

一 流儀云流しの方て流州城おれ日寺焼用中此
長し五字未指案居念中し山傍し去高標止
中は此世世知し日流流しおるの節解し尚下し節指し
流し指案居兼し此し此の節解し節解し此は此
是し此世の事

七月廿日

玉林院三徳 大徳寺中
月鏡示

書派

煨所秋年首在都七日唐火在都一時燒拂
十日壯大類燒又予少火口口口口口口口口

○五都三山志
本日卯日三十一日
花付石出小路
日水地初集及後

大目録下

松平阿波守
松平次濃守
松平之河守
松平相模守

細川秋中守
有馬中勢守備
松平信茂守
松平出守
松平隠波守
立花茂守
松平右衛門守
松平源理守
松平右衛門守
伊達守

書

埃町秋年首長部七日廣く火を所一時焼掛
中州火類焼又予少火口口口口口口口口

一 八月朔日水沖和泉寺及後

大因寺

松平阿波寺
松平欠儀寺
松平三河寺
松平相模寺

細川秋中寺
有馬中勢古備
松平信前寺
松平山内寺
松平隠波寺
立花茂隆寺
松平右衛門寺
松平院院寺
松平右衛門寺
伊達道直寺

松平肥前守
龜井長政
坂合周防守
山室平左衛門
奥平大膳
阿部正守
服部正行

松平大膳受領第百禁入系此信臣海島城後在
名是御免此千定法所國是信臣海島城後在
亦追之若此知以寛右仁忠能扱之云云悔院云

去言と九右衛門石室希之三級を合既之瑞を能キ
村 禁國受領此系千定法所國是信臣海島城後在
軍令修徳國日信徳中平治院此系千定法所國是信臣海島城後在
述之進討云々云々

七月廿一日

右之進討 江村正 信臣海島城後在
速之軍勢 國元之 禁國受領此系千定法所國是信臣海島城後在
以之 石室平左衛門 入陣 誠之 云々

此書は 政 村 勝 女 取 魚 口 日 限 之 以 後 又 強 不 才
云々

一 越前人故し 高き也 尾交と云ふ 古柳いす
一 石阜井く 之当昔 度市於由立 子地 子 禮者来
一 尾店 子 恰幸 以 年 中 女 冒 着 子

今月 七月

一 大...
一 新...
一 本...
一 今...

